

医療被ばく研究情報ネットワーク第18回総会 議事次第

1. 日時 : 2026年6月8日(月) 13:00~14:00

2. 場所 WEB 開催 (Teams 利用)

3. 議題

- (1) 前回会合の議事概要の紹介
- (2) 実態調査 WG の設置について (審議事項)
- (3) 会員の活動報告 (報告事項)
- (4) その他

4. 配付資料

- 資料1 J-RIME 総会第17回総会議事概要
- 資料2 J-RIME 団体会員一覧
- 資料3 UNSCEAR グローバルサーベイについて
- 資料4-1 医療放射線防護連絡協議会からの報告資料
- 資料4-2 日本医学物理学会からの報告資料
- 資料4-3 日本医学物理士会からの報告資料
- 資料4-4 日本 IVR 学会からの報告資料
- 資料4-5 日本核医学技術学会からの報告資料
- 資料4-6 日本画像医療システム工業会からの報告資料
- 資料4-7 日本歯科放射線学会からの報告資料
- 資料4-8 日本 CT 検診学会からの報告資料
- 資料4-9 日本消化器がん検診学会からの報告資料
- 資料4-10 日本小児心臓 CT アライアンスからの報告資料
- 資料4-11 日本診療放射線技師会からの報告資料
- 資料4-12 日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料
- 資料4-13 日本放射線技術学会からの報告資料
- 資料4-14 日本保健物理学会からの報告資料

医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）第17回総会

議事概要

1. 日時：2025年4月10日（木）10:00～12:00

2. 場所：パシフィコ横浜 会議センター 414+415

3. 参加者（敬称略）

J-RIME代表	細野 眞
J-RIME副代表	神田 玲子
団体会員	
医療放射線防護連絡協議会	菊池 透
日本医学物理学会	古場 裕介
日本医学物理士会	遠山 尚紀、木藤 哲史
日本医学放射線学会	宮寄 治
日本 IVR 学会	赤羽 正章
日本核医学会	馬場 眞吾
日本核医学技術学会	石黒 雅伸
日本画像医療システム工業会	長束 澄也、稲葉 潔
日本がん検診・診断学会	（出席者なし）
日本歯科放射線学会	大高 祐聖
日本 CT 検診学会	中山 富雄
日本消化器がん検診学会	見本 真一
日本消化器内視鏡学会	（出席者なし）
日本小児心臓CT アライアンス	庄司 友和、竹井 泰孝
日本小児放射線学会	宮崎 治
日本診療放射線技師会	鈴木 賢昭
日本整形外科学会	（出席者なし）
日本乳がん検診精度管理中央機構	齋 政博
日本脳神経血管内治療学会	盛武 敬
日本放射線影響学会	（出席者なし）
日本放射線技術学会	五十嵐 隆元、坂本 肇、根岸 徹、松原 孝祐
日本放射線腫瘍学会	（出席者なし）
日本保健物理学会	小野 孝二
DRL-WG 主査	赤羽 正章
オブザーバ参加	厚生労働省（柏木 栄二、久富 庄平）、他21名
事務局	古場 裕介、張 維珊、赤羽 恵一、林 秀隆、平井 悠太

4. 議題

- (1) 前回総会の議事概要の紹介
- (2) 会則の改訂（審議事項）
- (3) 代表・代表代行の選出（審議事項）
- (4) DRLs2025の検討結果及び承認（審議事項）
- (5) 会員の活動報告（報告事項）
- (6) その他

5. 資料

資料1	J-RIME総会第16回総会議事概要
資料2	J-RIME団体会員一覧
資料3	J-RIME会則改訂案
資料4-1	DRL-WGからの報告資料
資料4-2	日本の診断参考レベル(2025年版)（案）
資料5-1	医療放射線防護連絡協議会からの報告資料
資料5-2	日本医学物理学会からの報告資料
資料5-3	日本医学物理士会からの報告資料
資料5-4	日本画像医療システム工業会からの報告資料
資料5-5	日本診療放射線技師会からの報告資料
資料5-6	日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料
資料5-7	日本脳神経血管内治療学会からの報告資料
資料5-8	日本放射線技術学会からの報告資料

6. 議事概要

- ・ 細野代表より開会の挨拶が行われた。厚生労働省からの出席されている以下の先生の紹介があり、挨拶が行われた。
厚生労働省 医政局 地域医療計画課 柏木 栄二 先生、久富 庄平 先生
- ・ 事務局より欠席の団体会員の紹介が行われた。
日本がん検診・診断学会
日本消化器内視鏡学会
日本整形外科学会
日本放射線影響学会
日本放射線腫瘍学会
- ・ 欠席の団体会員のうち、放射線影響学会以外からは審議の議決権を細野代表に委任する旨の連絡があることが伝えられた。

議題(1) 前回総会の議事概要の紹介

- ・ 事務局より資料1の資料1 J-RIME 第16回総会議事概要の説明が行われた。
- ・ 前回総会後に紹介・確認済みのため紹介のみであった。
- ・ 前回総会時の新規加入により資料2のように団体会員が23団体となった。

議題（２）会則の改訂（審議事項）

- ・ 事務局より資料３を用いて以下会則の改定案について説明が行われた。
 - ✓ 事務局を設置している QST の組織改編による所属名称の変更
 - ✓ 改訂履歴の位置を移動
- ・ 会則の改訂について異議なく賛成多数により承認された。

議題（３）代表・代表代行の選出（審議事項）

- ・ 事務局より資料３の J-RIME 会則 第 7～11 条に従い、代表および代表代行を選出する旨が説明された。
- ・ 事務局より代表として細野眞先生が推薦され、異議なく賛成多数により承認された。細野代表より挨拶が行われた。
- ・ 細野代表より代表代理として神田玲子先生が推薦され、異議なく賛成多数により承認された。神田代表代理より挨拶が行われた。

議題（４）DRLs2025の検討結果及び承認（審議事項）

- ・ 資料４－１、４－２を用いて DRL-WG の赤羽主査より DRLs2025 について DRL-WG の検討結果が報告された。
 - ✓ DRLs2025 作成に関して WG、PT 関係者及びアンケートに協力いただいた方々に感謝します。
 - ✓ ここでは DRL の数値自体について説明せず、概要について説明を行う。
 - ✓ これまでは既存の調査に対して、追加の調査をモダリティごとに行っていた。
 - ✓ 今回は調査側の手間・費用、回答側の手間・回答率を検討して、調査会社を利用して統合的な調査を行った。
 - ✓ 調査会社の費用は日医放から予算をいただいた。
 - ✓ 医療法施行規則の改訂により各医療機関に医療放射線安全管理者が設置されたことから、アンケートは院長宛てに依頼し、実務は医療放射線安全管理者が行うことを想定。
 - ✓ 統合的線量調査の回答施設数が大幅に増加した。
 - ✓ 個別の線量調査においても回答施設数が増えており、各施設の線量調査への協力、DRL に対する意識の高まりや重要性の認識が行われたと思われる。
 - ✓ 成人 CT の DRL 量はこれまでと同様で CTDIvol と DLP の 2 種類であり、今回冠動脈撮影についてプロスペクティブ撮影とカルシウムスコアの単純撮影についても別に設定した。すべてのプロトコールにおいて線量が低減しており、最適化が進んでいる。
 - ✓ 小児 CT では年齢と体重の 2 つでカテゴリを分けて設定している。一部で前回より 75% 値が高くなっているものがあるが、それらは前回と同じ値を DRL として設定している。小児体幹部は体重による層別化を第 1 選択。
 - ✓ 今回新たに小児心臓 CT を加えている。小児 CT と同様に年齢と体重の 2 つで分けている。
 - ✓ 放射線治療に関する CT も今後この枠組みで取り扱うことにしており、今回治療計画用 CT について DRL の設定を行った。
 - ✓ 一般撮影の DRL 量はこれまで ESD と同じ値となる入射表面空気カーマとなっている。小児の股関節、全脊柱が加わった。
 - ✓ 前回と違って全国的により幅広い施設から回答が得られた。
 - ✓ 茨城県診療放射線技師会提供の EPD を利用して入射表面空気カーマを算出した。
 - ✓ 面積線量計の値も調査したが、表示できる装置が少なく、回答数が少ないため DRL 量としては採用しなかった。将来的には活用していきたい。
 - ✓ ほとんどの撮影部位や条件で線量低下している。

- ✓ マンモグラフィの臨床データについてデータ数は大幅に増えたが、線量の値はあまり変わっていない。
 - ✓ 歯科については 30 施設に線量計を郵送して調査した。パノラマ X 線と口内法 X 線撮影では大きな変化はない。
 - ✓ 歯科用コーンビーム CT では FOV サイズで変化があった。
 - ✓ 今後撮影線量が表示される装置が増える見込みで、これにより大学以外の調査でできる可能性がある。海外と比べて本邦は高い傾向。
 - ✓ IVR では幅広い領域で調査を行った。頭頸部は 2020 と比べて下がっている。
 - ✓ 成人心臓領域では特にアブレーションで大幅な低減があり、マッピングを活用している施設が増えているものと推測される。
 - ✓ 体幹部では子宮筋腫 UAE、肺動静脈路、BRTQ、TAVI が追加。
 - ✓ 小児心臓領域では体重区分を追加した。
 - ✓ 診断透視では線量表示がない装置でも線量管理が行えるように透視時間と撮影回数も調査し、DRL を設定している。
 - ✓ 前は据え置き型のみだったが、今回は移動型の透視装置についても設定された。これは整形外科領域の先生方が調査に加わっていただけた結果である。
 - ✓ 胃の X 線検診について前は精研と検診を分けていたが、今回は統合して設定した。日本消化器がん検診学会の報告書のデータを利用した。
 - ✓ 核医学については製造中止になった放射性医薬品が除外され、新しい放射性医薬品が追加された。
 - ✓ SPECT/CT については前回と比べて少し下がった。
 - ✓ PET/CT の診療について遅延像の撮像を考慮して、「頭頸部」「胸部」「上腹部」「骨盤」「上腹部から骨盤」「胸部から骨盤」「四肢」を新設
 - ✓ PET/CT の診療についても少し下がっていて、心臓が追加された。
 - ✓ 全国の RI 施設 1178 施設に郵送、476 施設の回答があり高い回答率であった。
 - ✓ SPECT/CT 心臓の線量が大幅に下がっている。
 - ✓ まとめとして複数モダリティの線量調査を統合、線量調査の回答数が増加、多くのプロトコールで DRL 値が低下、小児の層別化は年齢から体重への移行期、より幅広いモダリティや手技に対応が挙げられた。
- ・ 細野代表より今回の線量調査により線量の最適化が進んでいるということが確認できたことは大変朗報であり、モダリティ間の DRL 量なども含めて適切に設定が行われたとのコメントがあった。
 - ・ 日本保健物理学会より小野氏より線量調査の N 数については公表されるのかという質問があり、赤羽主査より資料 4-2 の後半報告書に記載されていると回答があった。
 - ・ 医療放射線防護連絡協議会の菊池氏より、初回はまず DRL を作ったということが重要であるが、今後 DRL の調査を継続していくために調査会社を利用するということが説明されたが、具体的な点を教えてほしいとの質問があった。赤羽主査より、前回までの調査では Google フォームにて作成して調査を行っていたが、担当者が変わるとフォームの再作成などが発生する可能性があるが、調査会社が作成したフォームは引き継いでいくことができ、手直しについては注文するだけでよいという利点がある、郵送業務や集計業務、データの異常値の検出や問い合わせなど高いメリットがある、ただデメリットとしてはお金がかかる、引き続き日本医学放射線学会のサポートを期待しているとの説明が行われた。
 - ・ 日本診療放射線技師会の鈴木氏より、統合的な線量調査は画期的で有効な調査方法だったと思うが、調査を実施する診療放射線技師の立場からは線量管理システムからデータを引き出すことができないかと JIRA と協力して模索している、調査項目とオーダー項目を紐づけていく必要があるので、調査項目が毎

回変わると負担が大きくなるので、できるだけ調査項目は固定してほしいとの要望があった。赤羽主査より今回の調査においても調査項目はできるだけ変えないということは認識していたが、できるだけまとめて変更し、今後はあまり変えないようにすることは意識していきたいと回答があった。

- ・ DRLs2025 の値、参考資料を含めて今後の編集作業を代表・主査・事務局に一任することについて審議が行われ、賛成多数により承認された。
- ・ 細野代表より今後の公開のプロセスについて説明が行われた。事務局より事務局より各学会代表に団体承認の依頼が行われ、全ての団体承認が終わりましたら J-RIME HP にて「日本の診断参考レベル(2025 年版)」を公開する。

議題（５）会員の活動報告（報告事項）

- ・ 医療放射線防護連絡協議会（菊池氏）（資料５－１）
 - ✓ 医療放射線安全管理講習会を開催し、患者被ばく管理及び記録に関して診断参考レベルの活用について紹介した。
 - ✓ 診断参考レベルの啓発活動として「IVR に伴う放射線皮膚障害の防止にガイドライン」「医療領域の放射線管理マニュアル」の発行し、「診療用放射線による患者被ばく管理及び記録」に関する新たな項目を設け、日本の診断参考レベルの活用について掲載し、関係者に啓発・普及した。
- ・ 日本医学物理学会（古場氏）（資料５－２）
 - ✓ DRL-WG およびモダリティ別 PT ヘメンバーを参加させた。
- ・ 日本医学物理士会（木藤氏）（資料５－３）
 - ✓ 2024 年度において、聴講型講習会、実技講習会など計 27 回を開催し、そのうち放射線防護、安全管理、診断参考レベルに関する講習会を少し多めに 3 回開催した。
 - ✓ 4 月の放射線防護のセミナーでは 121 名と参加者が多かった。
 - ✓ 12 月は放射線安全管理、診断参考レベルのセミナーを開催した。
 - ✓ 2025 年度も放射線防護に関する講習会を計画中である。
- ・ 日本医学放射線学会（宮寄氏）
 - ✓ 広島大学の栗井氏の後任として、平木氏が日本医学放射線学会からの代表となった。
 - ✓ JRS 会員向けの「診療用放射線の安全利用に関する研修ビデオ」の配布を行った。
 - ✓ 日本医学放射線学会での教育講演・シンポジウムの実施として放射線防護関連の教育講演を計 2 回実施した
 - ✓ DRLs 2025 に向けての活動すべてのプロジェクトチームに 2 名ずつ委員を派遣した。また、調査費用の援助を行うことを理事会で決定した
- ・ 日本 IVR 学会（赤羽氏）
 - ✓ 特別な行事は行っていないが、問い合わせ対応や講習会等を行っている。
- ・ 日本核医学会（馬場氏）
 - ✓ 日本核医学会学術総会を核医学技術学会と合同で 11 月 7 日から 9 日に開催し、被ばく管理、教育セッションなどを行った。
 - ✓ 4 月 6 月にオンラインで秋季大会を開催し、核医学のための診療用放射線の安全利用コースを設け防護教育の推進を図った。
 - ✓ 防護委員会が新規 RI 製剤のパンフレットを作成しており、学会としての承認を行っている。
 - ✓ DRLs2025 に作成のための PT に参画している。
- ・ 日本核医学技術学会（石黒氏）
 - ✓ 11 月に総会を予定しており、今回の DRLs について啓蒙・啓発活動を予定している。

- ・ 日本画像医療システム工業会（長束氏）（資料5－4）
 - ✓ 中性子補足治療装置の規格については日本発の規格となっている。日本の存在価値を高めるよう活動している。
 - ✓ AI 個別規格も設定している。
 - ✓ 次回の DRL 改訂の際は、線量管理システムをもっと活用できるように働きがけて行きたい。
- ・ 歯科放射線学会（大高氏）
 - ✓ 主に DRLs2025 を設定のための活動を行った。
- ・ 日本 CT 検診学会（中山氏）
 - ✓ 低線量 CT 検診を行うことで、線量の最適化、低線量化を研究してきた。
 - ✓ 今回は DRL 設定には参加が難しかったため、次回の DRL 設定の際は参加していく予定
 - ✓ 低線量 CT が対策型検診に導入される予定で、飛躍的に件数が増える予定なので他の団体と検討していきたい。
- ・ 日本消化器がん検診学会（見本氏）
 - ✓ 診断透視 PT としてがん検診としては線量調査を報告し、PT で取りまとめてもらった。
- ・ 日本小児心臓 CT アライアンス（庄司氏）
 - ✓ 小児 CT の調査を行い、想定した数値が出てきたが、アジアと比べても数値が高かった。
- ・ 日本小児放射線学会（宮寄氏）
 - ✓ 小児の生殖腺シールドの撤廃について HP に掲載し、皆さんにお伝えしている。
- ・ 日本診療放射線技師会（鈴木氏）
 - ✓ 昨年、日本放射線技術学会と共同で学術大会を開催した。
 - ✓ 医療被ばく低減施設認定制度の再開に関するシンポジウムを行った。
 - ✓ 小児の股関節撮影の生殖線防護シールドの廃止に向けて情報共有と患者の家族に対する説明をどのように行うかについて検討を行った。
 - ✓ JIRA と日本放射線技術学会と合同で、DRL 設定のための統合的な調査のために、線量管理システムをどのように活用できるか検討するワークショップを開催した。
- ・ 日本乳がん検診精度管理中央機構（齋氏）（資料5－6）
 - ✓ 施設・画像評価の報告の結果、デジタルシステム 100%で、そのうち DR システムが 95%だった。
 - ✓ 認定率は 88.3%であった。
 - ✓ 平均乳腺線量の平均値は 1.41 mGy、95 パーセンタイル値は 2.10 mGy であり、昨年度とほぼ同等。
 - ✓ DR システムへの移行に伴うシステム線量の低減化がさらに進んでいると思われる。
- ・ 日本脳神経内治療学会（盛武氏）（資料5－7）
 - ✓ 学会員らの被ばく防護への関心を高め効果的な対策を図るため、放射線防護委員会企画による放射線防護セミナーを学術集会で開催した。
 - ✓ 放射線技術関連の企画として技師シンポジウムとして線量と画質についても知見を持ち寄り、意識を高めた。
 - ✓ DRL 改訂に向けた JSNET 内の準備体制を行った。
- ・ 日本放射線技術学会（五十嵐氏）（資料5－8）
 - ✓ 股関節シールドについて宮寄先生、鈴木先生の報告通り。
 - ✓ 役員改正により J-RIME の担当メンバーの変更が行われる予定。
- ・ 日本保健物理学会（小野氏）
 - ✓ 6 月に安全管理学会と合同で、医療被ばくセッションのシンポジウムを WEB 開催した。
 - ✓ 12 月に安全管理学会と合同で、阪大で大会を開催した。

- ✓ 医療被ばくの国民線量評価に関する研究を行っている。

議題（６）その他

- ・ 細野代表より次回の DRL 改訂の際には線量管理システムの活用を検討していくためにも、いくつかの課題を解決していく必要があり、個人情報の取り扱いやシステム構築の手間と費用などの課題があるとのコメントがあった。
- ・ 厚労省柏木先生、久富先生から J-RIME 総会で報告された活動についてコメントが述べられた。
- ・ 細野代表より閉会の挨拶が行われ、総会を閉会した。

以上

J-RIME団体会員一覧（2026年6月1日現在）

団体会員：J-RIMEの目的に賛同し、この組織の対象とする領域において
専門の学識、技術又は経験を有する団体(会則第3章第4条(1)にて規定)

医療放射線防護連絡協議会	451-0041 愛知県名古屋市西区幅下1-5-17 大野ビル1階
代表者	菊地 透
会長	菊地 透
連絡先	jimusitu11@gmail.com
日本医学物理学会	162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター(株)国際文献社内
代表者	古場 裕介
会長	西尾 禎治
事務局	jsmp-post@bunken.co.jp
日本医学物理士会	日本医学物理士会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
代表者1	遠山 尚紀
代表者2	木藤 哲史
会長	福士 政広
事務局	jcmp-post@bunken.co.jp
日本医学放射線学会	113-0033 東京都文京区本郷5-1-16 NP-2ビル7階
代表者	平木 隆夫
理事長	村上 卓道
事務局	office@radiology-sys.jp
日本インターベンショナルラジオロジー学会	〒355-0063埼玉県東松山市元宿1-18-4
代表	赤羽 正章
理事長	山門 亨一郎
事務局	TEL:0493-35-4250 / FAX:0493-35-4236 office@jsir.or.jp
日本核医学会	113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 日本アイソトープ協会内
代表者	馬場 眞吾
理事長	中本 裕士
事務局	jsnm@mtj.biglobe.ne.jp
日本核医学技術学会	530-0044 大阪市北区東天満1-11-15 若杉グランドビル別館702号
代表者	石黒 雅伸
理事長	山本 智朗
事務局	jsnmt-office@umin.ac.jp
日本画像医療システム工業会	103-0023 東京都中央区日本橋本町三丁目11番5号日本橋ライフサイエンスビルディング2 7階706号室
代表者1	稲葉 潔
代表者2	長束 澄也
代表者3	山内 宏祥
オブザーバ	丸田裕一
オブザーバ	小田 和幸
会長	瀧口 登志夫
事務局	dose-mng-gr@jira-net.or.jp
日本がん検診・診断学会	102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 6F 株式会社クバプロ内
代表者	土田 敬明
理事長	河合 隆
事務局	npjimu@jacdd.org
日本歯科放射線学会	135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株)学会事務センター内
代表者1	大高 祐聖
代表者2	三島 章
理事長	村上 秀明
事務局	jsomr@onebridge.co.jp

日本CT検診学会	102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 6F 株式会社クバプロ内
代表者	中山 富雄
理事長	芦澤 和人
事務局	jscts-office@kuba.jp
日本消化器がん検診学会	112-0014 東京都文京区関口1-19-2 第2弥助ビル3階
代表者	見本 真一
理事長	松田 尚久
事務局	TEL:03-3235-6754 FAX:03-3235-7647 info@jsgcs.or.jp
日本消化器内視鏡学会	101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-1 新御茶ノ水アーバントリニティビル4F
代表者	竹中 完
理事長	田中 信治
事務局	電話:03-3525-4670 / FAX:03-3525-4677 info@jges.or.jp
日本小児心臓CTアライアンス	〒113 - 8655 東京都文京区本郷7-3-1
代表	竹井 泰孝
事務局	
日本小児放射線学会	355-0055 埼玉県東松山市松風台4-62 メディカル教育研究社内
代表者	田波 穰
理事長	宮崎 治
事務局	office@jspr-net.jp
日本診療放射線技師会	108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル22階
代表者1	江藤 芳浩
代表者2	鈴木 賢昭
会長	上田 克彦
事務局	info@jart.or.jp
日本整形外科学会	113-8418 東京都文京区本郷2丁目40番8号
代表者	山下 一太
理事長	河野 博隆
事務局	
日本乳がん検診精度管理中央機構	〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目12番26号 丸の内セントラルビル 7階
代表者1	斎 政博
代表者2	西出 裕子
理事長	横江 隆夫
事務局	TEL:052-219-8166 / FAX:052-219-8165
日本脳神経血管内治療学会	〒160-0016東京都新宿区信濃町35信濃町煉瓦館(一財)国際医学情報センター内
代表者1	田上 秀一
代表者2	盛武 敬
理事長	松丸 祐司
事務局	jsnet@imic.or.jp
日本放射線影響学会	106-0031 東京都港区西麻布3-1-17 NISSHIN BLDG 3F
代表者	田代 聡
会長	田代 聡
事務局	jimukyoku@jrrs.org
日本放射線技術学会	600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町167ビューフォート五条烏丸3階
代表者	広藤 喜章
代表理事	石田 隆行
事務局	office@jsrt.or.jp
日本放射線腫瘍学会	〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14 TOKIビル5階
代表者	佐々木 良平
理事長	宇野 隆
事務局	jastro-office@jastro.jp
日本保健物理学会	〒105-0004 港区新橋3丁目7番2号四鹿ビル3F 株式会社国際広報企画内
代表者	藤淵 俊王
代表理事	杉浦 紳之
事務局	exec.off@jhps.or.jp

UNSCEARグローバルサーベイに ついて

J-RIME 事務局

UNSCEARについて

- 1955年国連の委員会として、日本を含む15か国からの科学者により組織
 - ミッション: 人と環境における放射線に関わる影響を調査し、国連総会に報告する
 - 科学に根差し、政策を取り扱わない独立かつ公平な立場
- 現在31か国が加盟。年に一回事務局のあるウィーンで年次総会が開催
 - 加盟国の代表(研究者: 80名以上)、国際的機関の代表や事務局長が参加
 - 議長団: 議長(1名)、副議長(3名)、書記(1名)
- 主な活動: 毎年国連総会へ活動を報告し、必要に応じて科学的附属書を刊行
 - 科学的附属書は公衆被ばく(自然線源や人工線源、医療被ばく)及び職業被ばくの線量評価、並びに放射線による影響やリスクに関する最新の科学的知見をレビュー

UNSCEAR組織構造

運営体制

議長、副議長、書記、前議長

UNSCEAR事務局

(臨時事務局長:

副事務局長: Ferid Shannoun)

UNSCEAR運営支援

メンバー承認

代表または
代表代理
から互選

UNSCEAR加盟国の代表団

(代表、代表代理、アドバイザー)

- 加盟31か国
- 代表団は科学者のみ
- 報告書案のレビュー
- 報告書公表の承認

専門家グループ

(senior technical adviser,
Lead writers,
contributing writers)

- 加盟国からの推薦
- 専門家グループ内からの追加推薦
- 報告書案の作成

報告書案の送付

レビュー
コメント

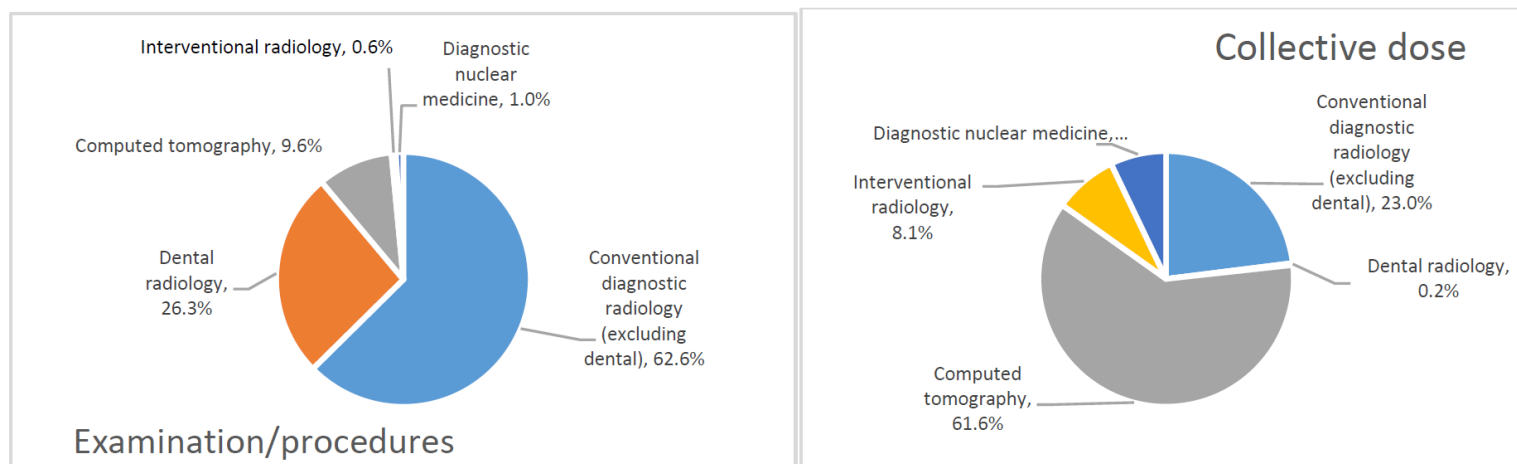
電離放射線からの医療被ばく評価

- UNSCEAR設立以来、世界的な放射線被ばくの包括的な評価が定期的に行われている。(1958年、1962年、1972年、1977年、1982年、1988年、1993年、2000年、2008年、2020年の各報告書)
- 被ばくの評価には、文献調査に加えて、国連加盟国に対する調査(グローバルサーベイ)がある。
- 前回2020年報告書の作成時は、2017年から2019年にかけてグローバルサーベイが行われた。

UNSCEAR2020/2021年報告書

- 放射線診断の集団実効線量は420万人・Svと推定(治療には実効線量は適切ではないとして、使用しない)。2008年と比べて、若干減少したが、変動幅の範囲内。
- ほとんどは、conventional radiology (歯科を除く)であり、全手技中63%を占め、線量に占める割合も大きい。IVRは全手技中0.6%に対し、集団実効線量においては全体の8%となっている。
- CT検査の総数は前回の調査より80%増加し、集団実効線量への寄与も増加した。
- 医用放射線の利用は、高中所得の国に集中しており、医療用放射線検査の約70%、全体の推定集団線量の75%を占めている。核医学検査や治療についてはさらに高く、90%以上である。

Figure II. Distribution of number of examinations/procedures by imaging modality and their contribution to the collective effective dose



前回提出した被ばく情報

- 下記分野毎の装置・従事者・頻度・線量のデータ
 - 放射線診断およびIVR
 - 放射線治療
 - 核医学
- Simplified Questionnaire
 - 検査数、医師数、装置数など
- Detailed Questionnaire
 - 従事者数、年齢ごと検査数、線量など

J-RIME 第 18 回総会資料：WEB 開催 2026 年 6 月 8 日（月）

「医療放射線防護連絡協議会からの医療被ばくに関する活動報告」

医療放射線防護連絡協議会

会長 菊地 透

1. J-RIME DRLs2025 に関連して

令和 7 年度の医療放射線安全管理講習会(厚生労働省及び日本医師会からの後援)を、テーマ「医療放射線の安全利用のための立入検査と改訂版診断参考レベル(DRLs2025)のポイント」と題して、総参加者数は 365 名を得て、第 79 回(10 月 26 日)と第 80 回(11 月 30)に WEB 開催した。

特に教育講演では「Japan DRLs2025 のポイント」と題し、J-RIME 診断参考レベル WG 主査を務めた赤羽 正章(国際医療福祉大学 医学部)氏から、DRLs2025 の全容について紹介した。また、具体的な DRLs2025 について、一般撮影、CT と IVR の課題と題して、3 施設の臨床現場から紹介した。

なお、放射線診療施設の立入検査(東京都の場合)の教育講演においても、小林 剛(東京都保健医療局医療政策部医療安全課) 氏から、DRLs2025 の活用と運用が紹介された。

2. 当協議会発行図書による診断参考レベルの啓発活動

当協議会機関誌の医療放射線防護誌 93 号(2025. 10)の巻頭言に、赤羽 正章(国際医療福祉大学)氏から放射線診療における最適化の物差しとして DRL の活用について紹介した。また、当協議会から J-RIME の DRL-WG に参加した長畑 智政(大阪公立大学附属病院)が DRLs2025 ついて紹介した。同 94 号(2026.3)に特集掲載として、上記令和 7 年度の医療放射線安全管理講習会の講演内容と総合討論の詳細について掲載し、改訂版診断参考レベルの活用について関係者に啓発・普及した。

3. その他

当協議会活動目的である医療分野における放射線防護に関する重要事項として、医療被ばくの安全管理について、加盟学協会・団体(16 学協会・団体)の協力を得て活動した。

J-RIME 第 18 回総会

日本医学物理学会 活動報告

2026 年 6 月 8 日

JSMP 放射線防護委員長 古場裕介

- 第 131 回医学物理学会学術大会（JSMP129）における委員会企画
放射線防護委員会の企画として以下のテーマ、演者の講演会を企画した。
企画テーマ：治療計画 CT における線量管理と最適化の最新動向
座長：松原 孝祐（金沢大学）
 - 治療計画 CT における DRL の考え方と活用法
演者：須田 雄飛（東京都立駒込病院）
 - 基準値となる CTDI・DLP 表示値の妥当性検証
坂本 昌隆（浜松医科大学医学部附属病院）
 - 臨床における線量最適化
演者：後藤 光範（昭和医科大学病院）

J-RIME 総会
一般財団法人日本医学物理士会
医療被ばくに関する活動報告（2025 年度）

一般財団法人日本医学物理士会
会長 福土政広
代表 遠山尚紀、木藤哲史

日本医学物理士会では、放射線診療および放射線治療における医療被ばくの最適化、安全管理、品質保証を目的として、継続的な教育・研修活動を実施した。

・ 2025 年度ベーシックセミナー②「放射線防護」

ICRP Pub.103、ICRP Pub.147、Japan DRLs 2025 等の最新動向を踏まえ、放射線防護体系、実効線量、DRLs、医療被ばく線量評価、水晶体被ばく、WAZA-ARI、モンテカルロ計算、小児生殖腺防護、リスクコミュニケーション、IGRT・中性子・二次発がん等に関する教育を実施した。

・ 2025 年度ベーシックセミナー④「マルチモダリティ」

「医学物理士が知っておきたいマルチモダリティ 101」をテーマとして、CT、MRI、核医学等に関する包括的教育を実施した。特に、Dual Energy CT、Deep Learning Reconstruction、Artifact 低減、治療計画 MRI、歪み補正、PET/SPECT 定量、呼吸同期技術等を取り上げ、画像品質向上および被ばく最適化に資する教育を推進した。

さらに、放射線治療分野においては、VMAT 治療計画実習講習会、放射線治療プランチェック入門セミナー、放射線治療リスク分析 Web セミナー、DIR 実技講習会、ビームデータ測定実習講習会、リニアック標準計測法 24 セミナー等を開催し、高精度放射線治療における線量評価、品質保証（QA/QC）、医療安全およびリスクマネジメントに関する教育を継続的に実施した。また、Quality Indicator（QI）を活用した放射線治療実施体制分析等を通じ、安全文化の醸成および放射線治療提供体制の質向上に取り組んだ。

本会では、e ラーニングシステムおよび医学物理士認定機構業績評価点制度と連携した継続教育を推進し、医学物理士の知識・技能向上および質保証に取り組んでいる。今後も、医療被ばくの最適化、放射線診療・放射線治療の安全性向上、品質保証体制の強化、多職種連携による安全文化の推進を通じ、安全で質の高い放射線医療の提供に貢献していく。

2026/6/8 J-RIME 総会

2025 年度 活動報告

日本インターベンショナルラジオロジー学会

赤羽 正章

学会等の講習や講演、原稿の寄稿、学会に寄せられる質問への回答、などの下記に挙げたような活動を通じて、医療被ばくや職業被ばくに関する放射線防護についての啓発活動に努めている。この 1 年は DRL に関する質問が増加しており、2025 年改定による関心の高まりが感じられる。

- ウェビナー 「IVR を安心して続けるためにーリアルな線量を“見て学ぶ”放射線防護」
若手や女性医師をターゲットとして、不安や疑問を解消し術中線量の実録をレビューすることにより、現場で活かせる実践的なポイントを学ぶ機会を提供した。
- JRC2026 第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会放射線防護部会 教育講演
DRLs 策定から 10 年の歩みについて講演を行い、初版策定の背景から 2025 年改定までの活動を振り返り、今後の改定に資するべく、折々の課題と解決策やその結果の見直しを共有した。
- 放射線障害防止中央協議会 放射線安全管理研修会
医療における放射線安全管理について講演を行い、水晶体の職業被曝および DRL を活用した最適化推進についての啓発を行った。
- 原子力安全技術センター 医療機関のための放射線安全管理講習
医療における放射線安全管理について講演を行い、水晶体の職業被曝および DRL を活用した最適化推進についての啓発を行った。
- ICRP 調査・研究連絡委員会 外部専門家との意見交換会
放射線診断検査から受ける患者の線量について講演を行い、医療被ばくの特殊性や国や施設による線量のばらつきと最適化の考え方からインフォームドコンセントのあり方やリスクコミュニケーションまで幅広く情報共有を行った。
- JCR ニュース 269 号 特集「日本の医療被ばくを考える」
放射線診療による医療被ばくの最適化に関するステートメントを寄稿し、診断参考レベルを活用した最適化の推進へ医師が積極的に関与するよう啓発を行った。
- 日本医師会雑誌 「日本の医療被曝-現状と今後の課題」
医療従事者の職業被ばくと健康影響について概説し、高線量被曝の実態や、複雑な法体系や安全文化や分断された管理体制などの構造的課題について情報共有と問題提起し、今後の展望を論じた。
- 日本脳神経血管内治療学会 放射線防護セミナー
IVR における DRL の考え方や 2025 年改定について概説し、DRL を活用した最適化推進について、特に医師の果たすべき役割を啓発した。

医療被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) 第 18 回総会 活動報告

日本核医学技術学会(JSNMT)

(1) DRLs2025 の利用啓蒙

- 学会 HP のお知らせに DRLs2025 公表案内、刊行物・資料から参照できるようリンクを貼り付け、会員への案内とした。
- 第 65 回日本核医学会総会 / 第 45 回日本核医学技術学会総会学術大会(2025 年 11 月 13 日～15 日；京都市勧業館みやこめっせ)において、以下の情報提供を行った。

プログラム：核医学技術学会ベーシックセミナー3

日時：2025 年 11 月 14 日（金）16:00 - 16:40

タイトル：DRLs2025 の概要

座長：飯森 隆志（千葉大学医学部附属病院）

演者：石黒 雅伸（藤田医科大学病院）

以上

報告者：石黒雅伸（JSNMT）

一般社団法人 日本医療画像システム工業会
放射線・線量委員会
委員長 長束 澄也

医療被ばくの観点から、医用画像診断装置 及び 放射線治療装置に関する主な国内外規格の動向について、第 17 回総会報告(2025 年 4 月 10 日)以降の状況を報告する。

1. IEC 規格/JIS の動向

(1) X 線 CT 装置

- (a) IEC 60601-2-44 Ed.4 X 線 CT 装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
 - ・ CDV 投票の結果、100%賛成となり、FDIS 発行へ進む (2026.7.3 予定)。
- (b) IEC 63483 Ed.1 X 線 CT 装置スペクトラル画像の性能評価方法
 - ・ CDV 投票の結果、100%賛成となり、FDIS 発行へ進む (2026.6.12 予定)。

(2) 診断及び IVR 用 X 線撮影装置

- (a) IEC 60601-2-54 Ed.2 (改正) X 線撮影及び透視用機器の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
 - ・ 2025.6.2-6.6 開催の東京会議で CD 原案について審議した。
 - ・ CD 投票が 2025.11.14 締切で各国審議され、提出されたコメントの審議中。
- (b) IEC 60601-2-43 Ed.3 IVR のための X 線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
 - ・ JIS Z 4751-2-43 (改正) 原案を日本規格協会へ提出した (2025.8.30)。

(3) 乳房用 X 線撮影装置

- (a) IEC 60601-2-45 Ed.4 乳房用 X 線装置及び乳房撮影定位装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
- (b) IEC 61223-3-2 Ed.2 (改正) 受入試験－乳房 X 線機器のイメージング性能
- (c) IEC 61223-3-6 Ed.1 (改正) 乳房用 X 線診断装置トモシンセシス画質の受入・不変性試験
 - ・ 上記 3 規格について、2025.5.20-5.24 開催の東京会議で審議した。

(4) 歯科用 X 線撮影装置

- (a) IEC 61223-3-4 Ed.1 (改正) 歯科用 X 線装置 (歯科用口内法 X 線装置、パノラマ X 線装置、セファロ X 線装置) の受入・不変性試験
 - ・ 進捗なし (SC62B/WG39 コンビナー不在のため)
- (b) IEC 61223-3-7 Ed.1 (改正) 歯科用 CBCT 装置の受入・不変性試験
 - ・ 進捗なし (SC62B/WG39 コンビナー不在のため)

(5) 放射線治療装置

- (a) IEC 60601-2-64 Ed.2 粒子線治療装置の基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
 - ・ IS 制定 (2025.12.5) に伴い、JIS T 0601-2-64:2016 改正原案を作成し日本規格協会へ提出した (2026.3.17)。
- (b) IEC 60601-2-68 Ed.2 画像誘導放射線治療装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
 - ・ IS 制定 (2025.2.4) に伴い、JIS T 60601-2-68:2019 を改正する (2026.7-2027.2)。
- (c) IEC 60601-2-1 Ed.4.1 リニアックの基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
 - ・ CD 投票が 2026.4.17 締切りで各国審議され、提出されたコメントの審議中
- (d) IEC 63321 Ed.1 X 線ベースの画像誘導放射線治療装置の機能性能特性
 - ・ CD 投票が 2026.4.3 締切りで各国審議され、提出されたコメントの審議中
- (e) IEC 60601-2-92 Ed.1 MRI ベースの画像誘導放射線治療装置の基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
 - ・ CDV 投票が 2026.5.8 締切りで各国審議され、提出されたコメントの審議中
- (f) IEC 62083:2025 Ed.3 放射線治療計画システムの安全要求事項
 - ・ CDV について各国審議中 (2026.8.7 締切)

(6) 中性子捕捉治療装置

- (a) IEC 60601-2-93 Ed.1 中性子捕捉治療装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項 (日本提案規格)
 - ・ CDV 投票の結果、100%賛成となり FDIS 発行へ進む (2026.6 予定)。
- (b) PNW 62C-980 Ed.1 中性子捕捉治療装置の性能特性
 - ・ NWIP について各国審議中 (2026.6.12 締切)

2. その他の IEC 規格/JIS の動向

(1) 通則・副通則

- ・ 通則 4 版に向けた IEC 規格の開発が本格的に開始された（現在の副通則（12 種類）はすべて通則に取り込まれることから各副通則の開発は 12 の WG で進める）。
- ・ 当初の開発計画は、CD:2025-03-27、CDV:2026-06-05、FDIS:2029-01-04、IS:2029-04-06 とされており、この計画を、12 の WG ではさらに細分化し、WG 単位の CD（フラグメント CD）等を、足並みを揃えて開発していく。
- ・ JIRA は、特に放射線ハザードに関する規格（FRAG10）の審議を担当している。
- ・ 通則 4 版の開発に際し、用語規格（IEV Part 880（医療用の電気機器、電気システム及びソフトウェア）、IEV Part 881（放射線学及び放射線物理学））の改訂を急ピッチで進めている。

(2) 医用画像表示装置

- (a) IEC 62563-3 Ed.1 カラー医用画像表示装置の評価方法
 - ・ 進捗なし
- (b) IEC 62563-4 ED1 カラー医用画像ディスプレイの受入試験と不変性試験
 - ・ NWIP が 100%賛成で承認された（CD:2026.12.30、CDV:2027.12.30、IS:2029.2.28）

(3) AI 個別規格

- (a) IEC 63524 Ed.1 人工知能搭載した肺野画像に対するコンピュータ支援解析ソフトウェアのアルゴリズム性能
 - ・ CDV 投票が 2025.12.26 締切りで各国審議され、提出されたコメントの審議中

(4) X 線防護材料

- (a) JIS Z4501 X 線防護用品類の鉛当量試験方法
 - ・ JIS T 61331-1：診断用 X 線に対する防護用具―第 1 部：材料の減弱特性の決定方法とスコープが一部重複するため、主に JIS Z4501 のスコープを見直し 2026.2.27 日本規格協会へ提出した。

(5) X 線管球

- (a) IEC 60601-2-28 Ed.3.1 X 線管球の基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
 - ・ CDV 投票の結果、100%賛成となり、IS として制定される（2026.6.12 予定）

(6) MR 装置

- (a) IEC 60601-2-33 Ed.4（改正）MR 装置の基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
 - ・ DISH 投票の結果、100%賛成となり、解釈シートとして公表される
- (b) IEC 62570 Ed.2 磁気共鳴環境における安全のための医療機器及び他の品目の製作に関する標準実施要領
 - ・ IS 制定（2025.9.18）に伴い、JIS T 62570:2018 を改正する（2026.7-2027.2）。
- (c) PNW TS 62B-1407 Ed.1 磁気共鳴装置の単一故障時の状況および磁気共鳴環境下でのインプラント評価に関するその他の考慮事項
 - ・ 磁気共鳴対応の埋め込み型医療機器の製造業者および磁気共鳴装置の製造業者を対象とし、磁気共鳴対応の埋め込み型医療機器を体内に持つ患者が磁気共鳴検査を受ける状況に関するもの。
2026.6.5 締切りで各国審議中

3. JESRA（日本画像医療システム工業会規格）制定・改正

- (1) TR-0031 * A 天井式 X 線管保持装置用天井下地工事標準化マニュアル（2026.1.15 改正）
- (2) TR-0034 * E リモートサービスセキュリティガイドライン（2026.4.30 改正）
- (3) TR-0040 * C X 線診療室の管理区域漏えい X 線量測定マニュアル（2025.10.10 改正）
- (4) TR-0046 * A X 線診療室遮へい計算マニュアル（2025.11.14 改正）
- (5) X-0051 * E ガンマカメラの性能測定法と表示法（2026.3.5 改正）

※ JESRA は JIRA ホームページから無償でダウンロードできます。

<https://www.jira-net.or.jp/publishing/jesra.html>

NWIP（New Work Item Proposal）新規業務項目提案

CD（Committee Draft）委員会原案

CDV（Committee Draft for Vote）投票用委員会原案

FDIS（Final Draft International Standard）最終国際規格案

ISH（Interpretation Sheet）解釈票

以上

日本歯科放射線学会・活動報告

・全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会 2025 年度総会・歯科放射線技術研修会（2025/06/28,29）にて「歯科領域診断参考レベルの更新」のタイトルで DRLs 更新の報告を行った。

・日本歯科放射線学会 第 65 回学術大会・第 20 回定例総会（2025/05/31, 06/01）にて「2025 年版日本の診断参考レベル（DRLs2025）に関する報告」のタイトルで DRLs 更新の報告を行った。

・日本歯科放射線学会誌（2025 年 65 巻 2 号）にて「日本の診断参考レベル（2025 年版）に関する報告」のタイトルで歯科に関係する箇所のみ DRLs 2025 の転載を行った。

<https://doi.org/10.11242/dentalradiology.65.47>

・歯科 X 線撮影時の患者への防護エプロン装着の有無と非装着時の説明状況について、大学歯学部・歯科大学附属病院等の 30 施設を対象に、アンケートによる調査を行った。

以上

2026 年 5 月 26 日

CT 検診領域における診断参考レベル (DRL-CTSc) 策定ワーキンググループ

活動報告

日本 CT 検診学会 (JSCTS)

DRL-CTSc WG

WG 長 中山 富雄

1. はじめに

日本 CT 検診学会 (JSCTS) では、2024 年度末より DRL-CTSc WG を編成し、CT 検診領域における診断参考レベル (DRL-CTSc) の策定に向けた活動を継続している。本稿では、2025 年度における当 WG の活動について報告する。

2. 活動内容の概要

肺がん検診

低線量肺がん CT 検診の対策型検診への一部導入を見据え、日本肺癌学会と本学会が中心となり、関連 7 団体と連携して、対策型検診のための低線量 CT による肺がん検診 (LDCT 検診) マニュアル草案を作成した。本草案は、厚生労働科学研究「低線量 CT を用いた新しい肺がん検診の体制構築に関する研究班」において検討・審議が重ねられ、2026 年 1 月 30 日付で概要版として厚生労働省ホームページ (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/newpage_69640.html) に公開された。本概要版における DRL-CTSc 関連の記載としては、標準体型における線量指標として CTDIvol 2.5 mGy 以下を提示するとともに、主要ベンダー機種における初期的な撮影条件例を示すことができた。

大腸がん検診

大腸 CT 検診領域については、本学会大腸部会と連携しながら意見交換を継続しているものの、現時点では明確な成果には至っていない。今後は、本領域における WG 活動をさらに活発化させていく予定である。

3. 今後の予定

当 WG は、CT 検診に関連する 10 団体との連携のもとに開始された経緯がある。今後、CT 検診領域における診断参考レベル策定に向けた活動を継続していく予定である。

2026.6.8

J-RIME 第 13 回総会提出資料

(一社) 日本消化器がん検診学会 活動報告

報告者：見本真一

Japan DRLs2025 の理解と実践に向け、胃がん検診における線量最適化に向けた各種研修活動を全国的に展開した。

- 1) 2025 年 8 月 31 日 日本消化器がん検診学会 第 84 回関東甲信越支部地方会
シンポジウム：胃 X 線・内視鏡検診の課題と展望
「胃 X 線検査における線量管理目標値」 水戸市
- 2) 2025 年 11 月 1 日 JDDW2025 第 33 回日本消化器関連学会週間
パネルディスカッション：消化器診療における放射線被ばくの現状と課題
「胃 X 線検査における低線量胃がん検診の構築は可能か」 神戸市
- 3) 2026 年 2 月 21 日 日本消化器がん検診学会 第 55 回近畿支部放射線研修会
「胃 X 線検査における医療被ばく線量管理」 Web 開催
- 4) 2026 年 3 月 1 日 日本消化器がん検診学会 第 52 回関東甲信越支部放射線学術集会
「胃 X 線検査における医療被ばく線量管理」 東京都
- 5) 2026 年 3 月 14 日 全国労働衛生団体連合会 胃 X 線検査研修会（専門コース）
「線量の調査と被ばくの低減について」 東京都

特に、上記 2) では日本消化器内視鏡学会による被ばく防護への意識調査結果を中心に、各医療機関における線量最適化と放射線防護への取り組みについて貴重な知見を得た。

<https://www.jges.net/news/news-committee/2024/05/02/81045>

今後は、日本消化器がん検診学会と、上記 5)での全国精度管理調査活動において、全国規模での線量調査を継続する運用を検討していく見通しである。

資料 4－9

以上。

J-RIME 第 18 回総会

日本小児心臓 CT アライアンス 活動報告

2026 年 6 月 8 日

日本小児心臓 CT アライアンス 代表 竹井 泰孝

- 日本小児心臓 CT アライアンスは 2026 年度で単独活動を終了し、庄司友和氏が代表を務める Pediatric CT 研究会と協働で活動を継続していくこととした。
- Pediatric CT 研究会との共催で、2026 年 5 月 23 日(土)に第 2 回小児心臓 CT スキルアップセミナーを開催した。

【リフレッシュコース】

座長 国立成育医療研究センター 宮崎 治 先生

1. 「小児心臓 CT 画像の読影のポイントや診断に必要な画質」

埼玉県立小児医療センター 放射線科 田波 譲先生

2. 「DRLs 2025 小児心臓 CT のトリセツ」

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 放射線部 庄司 友和 先生

【技術提供】

3. 「小児心臓 CT における低被ばく撮影と造影プロトコルの工夫」

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 舩田 隆則 先生

【特別講演】

座長 川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 竹井 泰孝先生

「小児被ばくと健康について考える」

公益財団法人 環境科学技術研究所 理事長 島田 義也 先生

J-RIME 第 18 回総会 配布資料

(公社) 日本診療放射線技師会

J-RIME 会員の活動 (報告事項)

1. 第 41 回日本診療放射線技師学術大会 2025 年 9 月 12 日～9 月 14 日 (福井県)

1) (日放シンポジウム 4) JJ 合同企画

「JART・JSRT 協力体制の振り返りとこれからの展望」

座長：日本診療放射線技師会 副会長 富田博信

座長：日本放射線技術学会 副代表理事 市田隆雄

- ・ 第 1 回日本放射線医学技術学術大会開催と振り返り

日本診療放射線技師会 理事 菊地克彦

- ・ 股関節撮影時の生殖腺遮へいの見直しへの道のり

東京慈恵会医科大学附属病院 阿部由希子

- ・ 総合討論

2) (日放シンポジウム 5) JART 医療被ばく安全管理委員会

「医療被ばく低減施設認定はこうすれば取れる」

座長 医療被ばく安全管理委員会 委員長 鈴木賢昭

座長 医療被ばく安全管理委員会 委員 佐藤洋一

- ・ 医療被ばく低減施設認定事業の変遷

医療被ばく安全管理委員会 委員長 鈴木賢昭

- ・ 医療被ばく低減施設認定審査の要点

医療被ばく安全管理委員会 委員 佐藤寛之

- ・ 医療被ばく低減施設認定への虎の巻

獨協医科大学病院 福住 徹

3) (日放シンポジウム 8) DRLs2025

「被ばく線量管理の動向～臨床への落とし込みを考える～」

座長 日本診療放射線技師会 副会長 富田博信

座長 日本診療放射線技師会 副会長 江藤芳浩

- ・ DRLs2025 の改定と生殖腺遮蔽の廃止に関するポイント

医療被ばく安全管理委員会 委員長 鈴木賢昭

- ・ DRLs の運用事例

医療被ばく低減施設施設認定サーベイヤール 奥中雄策

- ・ 生殖腺遮蔽の廃止に関する運用事例 医療被ばく安全管理委員会 委員 山本進治

- ・ 総合討論

4) (日放シンポジウム 10) 検査説明 委員会

「生殖腺防護シールド使用廃止に向けた検査説明の在り方」

座長 検査説明委員会 委員長 小林聖子

座長 高村病院 事務部・放射線部 部長 福島祐平

- ・生殖腺防護シールド使用廃止の科学的根拠

金沢大学医薬保健研究域 保健学係 教授 松原孝祐

- ・生殖腺遮蔽を廃止するまでの実際の手順

上尾中央総合病院 副課長 佐々木健

- ・検査に対する不安が生じる背景とその対応について

福井県公認心理師・臨床心理士協会 医療保健担当理事 小林仁志

- ・検査説明における擬態的なアプローチ

検査説明委員会 委員 木村英理

- ・総合討論

2. 医療被ばく低減施設認定事業

1) 更新 施設数 29 施設

2) 新規 審査合格 5 施設

3. 「医療放射線安全管理責任者講習会」をオンデマンドで実施した (410 名修了)。

4. DRLs2025 改訂作業に協力し、改訂版を会誌および本会 Web サイト等において広報した。

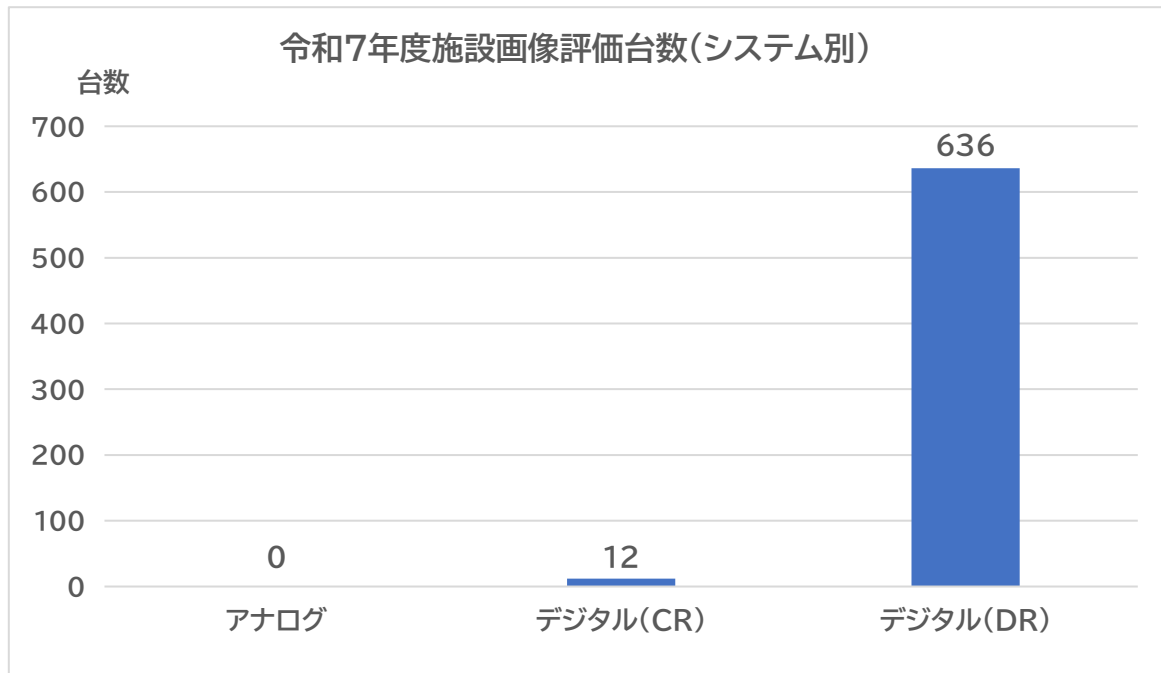
以上

令和 8 年 6 月 8 日

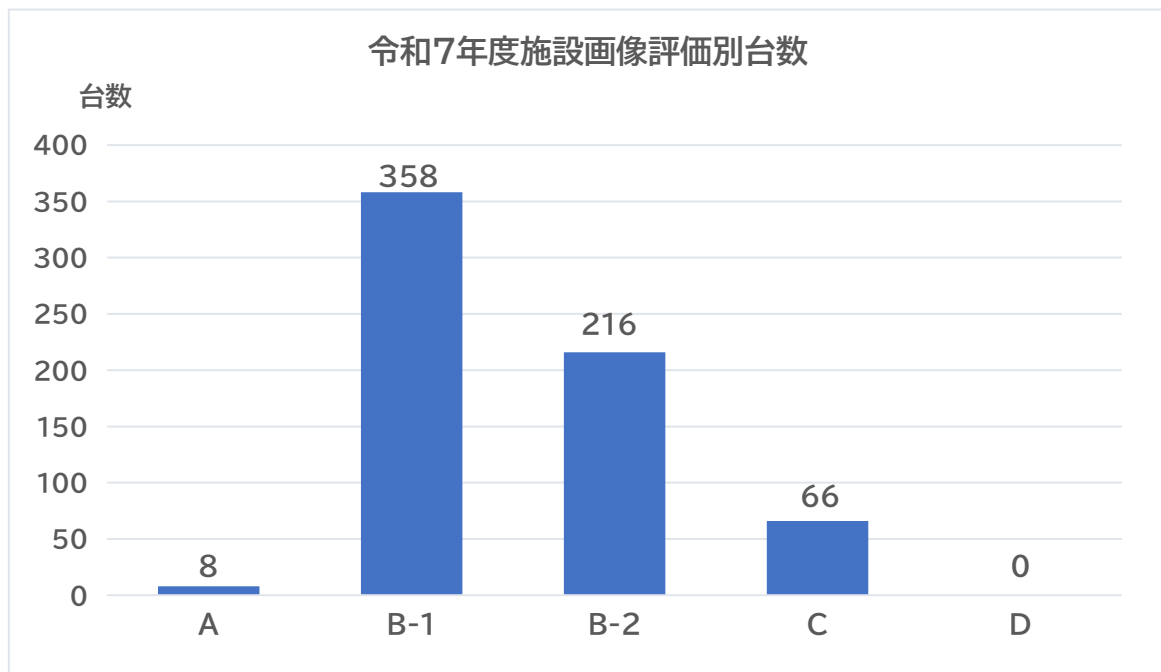
NPO 法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 活動報告

令和 7 年度のマンモグラフィ施設・画像評価の報告（評価述べ台数 648 台：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）を下記にいたします。

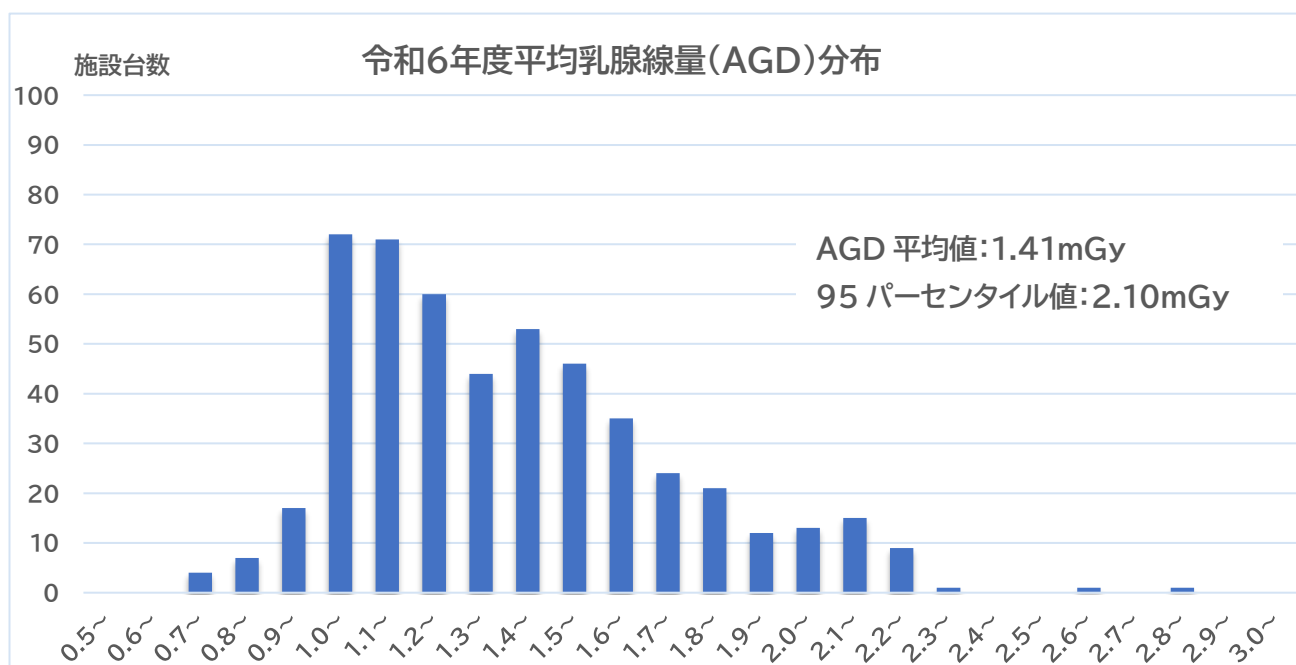
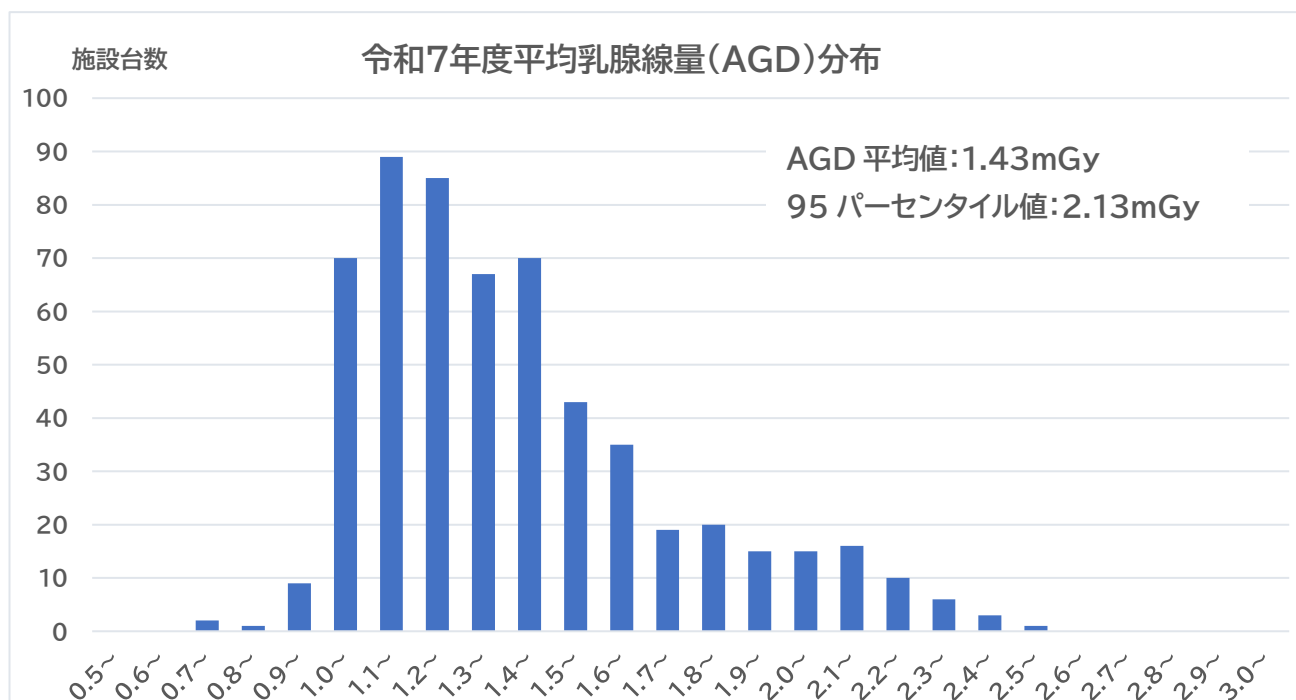
デジタルシステムは 100%、特に DR システムの導入が著しい（98.1%）。



施設認定は A、B-1、B-2 評価で、認定率は 89.8%であった。



令和7年度施設画像評価データからの平均乳腺線量の分布を下記に示します。
 平均乳腺線量の平均値は 1.43mGy、95 パーセンタイル値は 2.13mGy であった。
 昨年度と比較するとほぼ同等であった。



最新の DRL 2025（マンモグラフィ）の平均乳腺線量分布と比較すると、95 パーセンタイル値（2.16mGy→2.13mGy）は若干減少している。フラットパネルを搭載した DR システムへの移行に伴うシステム線量の低減化がさらに進んでいると思われる。

日本放射線技術学会活動報告

日本放射線技術学会 放射線防護委員長 広藤 喜章

第 81 回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜：2025 年 4 月 10 日～13 日）

●シンポジウム 1

2025 年 4 月 11 日（金）9:50～11:50

「DRLs2025 and beyond—放射線技術学会が取り組むべき課題—」

座長：根岸徹（東京都立大学）、五十嵐隆元（国際医療福祉大学成田病院）

DRLs2025 概要

国際医療福祉大学成田病院 赤羽正章

放射線治療領域における DRLs について

茨城県立中央病院 篠田和哉

マンモグラフィにおける DRLs2025 の活用について

東京都立大学大学院 根岸徹

放射線防護学と医療情報学のシナジー—DRLs2025 最適化の新たなアプローチ—

福島県立医科大学 広藤喜章

防護の最適化を推進するための方策—DRLs2025 の公開を受けて—

金沢大学 松原孝祐

●実行委員会企画 2

2025 年 4 月 13 日（日）11:00～11:50

「見えてきた！Japan DRLs 2025」

司会：奥田保男（量子科学技術研究開発機構）、五十嵐隆元（国際医療福祉大学成田病院）

見えてきた！Japan DRLs 2025（CT）

川崎医療福祉大学 竹井泰孝

見えてきた！Japan DRLs 2025（マンモグラフィ）

東京都立大学 根岸徹

見えてきた！Japan DRLs 2025（X 線透視）

千葉大学医学部附属病院 加藤英幸

見えてきた！Japan DRLs 2025（IVR）

順天堂大学 坂本肇

見えてきた！Japan DRLs 2025（核医学）

神戸常盤大学 對間博之

見えてきた！Japan DRLs 2025（一般撮影）

国際医療福祉大学成田病院 五十嵐隆元

（その他 DRLs2025 関連発表：3 演題）

●下記 HP にて DRLs2025 関連情報を会員向けに公開

2025 年 7 月 7 日

[お知らせ] Japan DRLs 2025 の公開について（放射線防護委員会）

<https://www.jsrt.or.jp/data/news/65811/>第 53 回日本放射線技術学会秋季学術大会（札幌：2025 年 10 月 17 日～19 日）

●放射線防護フォーラム

2025 年 10 月 18 日（土）10:00～11:00

「DRLs 2025 とその統合調査についての意見交換」

司会：五十嵐隆元（国際医療福祉大学成田病院）、広藤喜章（福島県立医科大学）

DRLs 2025 改定のための統合調査 国際医療福祉大学成田病院 五十嵐隆元

診断透視 千葉大学医学部附属病院 加藤英幸

IVR 秋田県立循環器・脳脊髄センター 加藤守

マンモグラフィ 東京都立大学大学院 根岸徹

CT 金沢大学 松原孝祐

一般撮影 福島県立医科大学 広藤喜章

（その他 DRLs2025 関連発表：7 演題）

●第 3 回放射線防護 温故知新 Web セミナー（教育委員会，放射線防護部会）

2025 年 11 月 19 日（水） 19:00 ～ 20:30

「DRLs のこれまでと最新情報提供」

講演①「DRLs2025 の総論・一般撮影・マンモグラフィ領域」

国際医療福祉大学成田病院 五十嵐隆元

講演②「CT・診断透視領域」

金沢大学 松原孝祐

講演③「血管造影領域」

順天堂大学 坂本肇

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜：2026 年 4 月 16 日～19 日）

●教育講演（計測部会）

2026 年 4 月 17 日（金）8:55 ～ 9:45

司会：庄司 友和（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター）

DRLs2025 における面積線量の背景と課題- “付いているのに使われない”をどう変えるか

京都医療科学大学 大野和子

●JIRA ワークショップ

2026 年 4 月 18 日（土）10:20 ～ 11:50

「DRLs2025 公開後の線量管理動向および取り組み」

司会：松原 孝祐（金沢大学），長束 澄也（コニカミノルタ株式会社）

診断 CT における DRLs 2025 公開後の線量管理実践の現状と今後の展望

窪田寛之（信州大学医学部附属病院）

IVR の DRLs2025 を踏まえた線量管理の現状と課題（心臓領域を中心に）

石橋徹（土谷総合病院）

線量管理システムを用いた DRLs2025 への対応と課題 山内宏祥（バイエル薬品株式会社）

海外市場における面積線量計の使用状況と課題

良知義晃（Jpi ジャパン株式会社）

●教育講演（放射線防護部会）

2026 年 4 月 18 日（土）13:10 ～ 14:00

DRLs 策定から 10 年の歩み 赤羽 正章（国際医療福祉大学成田病院）

●第 62 回放射線防護部会 14:05 ～ 15:05：

「DRLs 策定から 10 年 一線量・画質・診療目的を統合した新たな視点」

線量低減による X 線画像への影響と画質評価

東出了（鈴鹿医療科学大学）

DRLs から始める線量最適化：施設での実践事例と学び

鈴木陽（仙台赤十字病院）

●放射線防護フォーラム（防護部会共催）

2026 年 4 月 18 日（土）15:05 ～ 17:05

「DRLs2025 — その特徴と今後の方向性」

司会:広藤 喜章(福島県立医科大学), 田中 拓郎(鳥取大学医学部附属病院)

DRLs 2025 の総論

五十嵐隆元（国際医療福祉大学成田病院）

CT の概要と改訂点

竹井泰孝（川崎医療福祉大学）

治療計画 CT の概要

篠田和哉（茨城県立中央病院）

一般撮影の概要と改訂点

広藤喜章（福島県立医科大学）

マンモグラフィの概要と改訂点

根岸徹（東京都立大学）

IVR の概要と改訂点

加藤守（秋田県立循環器・脳脊髄センター）

診断透視の概要と改訂点

宮島隆一（国立病院機構長崎医療センター）

核医学の概要と改訂点

對間博之（神戸常盤大学）

（その他 DRLs2025 関連発表：11 演題）

●学術研究班「Japan DRLs2025 改訂に伴う最適化の全国実態調査と実証評価に関する研究」（2026-2027）が発足

以上

日本保健物理学会 活動報告

日本保健物理学会 藤淵俊王

放射線の非がん影響に関する専門研究会（2025,26 年の研究会）

眼、循環器、神経系、生殖腺、皮膚に生じる非がん影響について、科学的知見と国際動向を把握して、線量の評価や低減策など放射線防護における課題をまとめる活動を実施。タスクごと（影響、医療、産業、防護）のサブグループ会合を実施し、医療では患者の被ばくに伴う組織反応の最近 10 年の論文調査ととりまとめを実施している。

医療被ばく国民線量評価委員会（2022-2026 年）

医療被ばく線量評価方法の確立し、定期的に国民線量評価を行う仕組みの構築を行うための調査、検討を実施している。